

2022年8月25日

第1回 西部緑地公園再整備「新産業展示館」整備検討部会

全国の主要展示会場の状況及び市場概況について

一般社団法人 日本展示会協会

1. 日本の大型展示会場（数字は展示面積）

東京ビッグサイト	115,420 m ²
幕張メッセ	75,098 m ²
インテックス大阪	72,978 m ²
愛知スカイエクスポ	60,000 m ²
ポートメッセ名古屋	33,946 m ²
パシフィコ横浜	26,337 m ²
西日本総合展示場	16,377 m ²
福岡コンベンションセンター	14,152 m ²
神戸国際展示場	13,600 m ²
サンシャインシティ展示ホール	12,500 m ²

参考) 世界 1 位；ハノーバーメッセ 46.6 万 m²

同 2 位：上海国家会展中心 40.4 万 m²

→ 40,000 m²/2022 年 → 80,000 m²/2026 年

※東京ビッグサイト	東 1-6 ホール	51,380 m ²	} 一般的な大型展示会の目安
幕張メッセ	1-8 ホール	54,000 m ²	

※日本展示会協会の調べ（H28 年）では、東京ビッグサイト、幕張メッセ、パシフィコ横浜、インテックス大阪で国内展示会の 75% をカバーします。

→ オリパラ後、変化あり？

2. その他の主要会場（除、西日本。面積は屋内展示会場）

北海道	アクセスサッポロ	5,000 m ²	新潟	朱鷺メッセ	7,800 m ²
宮城	夢メッセ宮城	7,500 m ²	新潟	ハイブ長岡	3,481 m ²
山形	山形ビッグウイング	5,700 m ²	富山	富山産業展示会	6,997 m ²
福島	ビッグパレット福島	5,495 m ²	富山	産業創造センター	3,050 m ²
茨城	つくば交際会議場	2,450 m ²	福井	サンドーム福井	8,000 m ²
栃木	ライトキューブ宇都宮	2,470 m ²	福井	福井県産業会館	7,317 m ²
群馬	Gメッセ群馬	10,000 m ²	山梨	アイメッセ山梨	4,860 m ²
埼玉	埼玉スーパーアリーナ	14,600 m ²	静岡	ツインメッセ静岡	11,900 m ²
東京	東京国際フォーラム	5,000 m ²	愛知	吹上ホール	8,080 m ²

※地域に根ざしたイベント会場は、用途を展示会に限らない複合型施設であるケースが多い。

→ コンベンション、B2C イベント、屋内スポーツ、エンターテインメント

3. 展示会市場概況

【展示会の大型化】

我が国では1年間に600-1,000程度の展示会が開催されていると言われていています。展示会の数が特定されない理由は、地方会場などで開催される展示会を把握できないほか、近年、複数展示会の同時開催が増えていることがあります。

Ex. Japan IT Week (RX Japan)

- ・情報セキュリティ EXPO
 - ・クラウド業務改革 EXPO
 - ・AI・業務自動化展
- など10展以上の同時開催

Japan Robot Week (日刊工業新聞社)

- ・先端材料技術展
 - ・スマートファクトリーJapan
 - ・洗浄総合展
- など6展との同時開催

小規模な展示会は集客・採算の両面で開催が難しくなっていることが背景です。東京・大阪では、5,000 m²規模の展示会の単独開催は事実上難しくなっていることから、同時開催によるイベント大型化が進んでいます。

【展示会専門会社の増加】

1990年頃まで、日本の展示会の95%以上が業界団体、業界紙誌により開催されてきました。業界団体や業界誌出版社は定期的に当該業界の専門展を開催し、他分野の展示会は手掛けません。

一方、この20年ほどの間に、RX（旧 リード）など主に外資系の“展示会専門会社”が勃興、これらの企業による展示会が急増しました。展示会専門会社は業界を特定せず、ヨコ展開することが特徴です。

RX Japan、日本能率協会、Informa、メッセフランクフルト、イノベント、etc.

展示会専門会社は新規展示会の開催に積極的です。東京ビッグサイトや幕張メッセでは好ましい時期に会場を確保することが難しくなっており、現在、大阪、名古屋、福岡などでの開催が徐々に増えています。

【オリパラで進んだ地方開催 － 展示会の“売り場拡大”】

オリパラ 2020 によって東京ビッグサイトの使用が制限され、多くの展示会が大阪・名古屋などで開催されましたが、主催者にとって、東京以外での開催に手応えを感じる機会となりました。

オリパラが終了し展示会は東京に戻りましたが、大阪、名古屋などでは多くの展示会が現在開催されています。ただし、大阪・名古屋以外の都市に波及するにはまだ時間がかかりそうです。

【アフターコロナへ向けた動き】

コロナ禍で規模縮小した展示会ですが、現在までに 2019 年の 70-80%程度までに回復しています。（出展者・来場者とも「海外の戻り」はまだ見通しが立ちません。）

コロナ期にオンライン化や DX の導入が進みましたが、展示会のリアル回帰が急速に進んでいます。